

～花見山のふもとで 花と自然の中の保育実践～



育てる楽しさ！花咲く喜び！
育てよう豊かな心！

社会福祉法人 わたり福社会
さくら保育園

花いっぱいにかこまれた渡利地域での保育

さくら保育園は1980年4月に定員60名で開園した認可保育園です。建設当時から渡利地域は山と田畑、花に囲まれ、自然豊かな土地でした。近接する花見山が全国的に有名になる以前から、散歩に出かけたり保護者と一緒に遠足に行くなど、その自然の中でのびのびと保育を行ってきました。花見山に行く途中は花との出会いには事欠きません。自分たちしか知らない桜の木もあったりして子どもたちの散歩意欲を掻き立てます。また、さくら保育園の保育方針のひとつに太鼓・民舞・わらべうたがあげられています。それは花や野菜などの作物の収穫や雨ごいの為に地域で受け継がれてきたものです。散歩中にわらべうたを口ずさんだり、行事の中で地域や保護者の方に民舞や太鼓を披露することは、普段の保育活動の中で、生活に根差した取り組みになっています。

ふもとから花見山を望む



花を育てるにあたり基本的な取り組み方針

- ・花見山のそばにあるさくら保育園であることから、花と緑に楽しく接していけるようにしていく。
- ・種や球根の植え込みなど、植物を育てその経過を観察することを体験していく。
- ・生命力と花の周りに生きている生き物への育ちに感動や喜びを感じ、大切に育てることを通して実感していく。
- ・野菜の花から成長を見とどけ、収穫していく楽しみ、喜びを伝えていく。
- ・花が咲いて実がなり、種が出来るまでの過程も観察し、花や茎の基本の形を知り理解していく。
- ・花を収穫（花摘み体験）して、飾る、押し花にするなどの経験をしていく
- ・野菜の花にも興味を示し実りを楽しみにしていく。
- ・花を飾る楽しみや、人に花を贈る喜び等、新たな体験ができるようにしていく。
- ・春、夏、秋、冬の季節に咲く花の種類を知る。

保護者と共同の取り組みを通して

子どもを真ん中において、保育園と保護者が対等な立場で意見を出し合い、よりよい保育・子育てが出来るようにと開園して2年後にさくら保育園父母と職員の会ができました。毎月一回クラスごとに懇談会を開き、子育てについてみんなで語り合い、保護者同士が繋がることで子育ての不安も和らぎます。（夏まつり、運動会は保護者に裏方の仕事も担ってもらいます）0歳からの子育てという大変な時期を共に過ごすことでつながりがより強くなっていきます。

また、おやじの会という任意の組織もあります。保育園のために、子どものために、園庭整備やエアコン清掃、民舞荒馬制作、雪かきなどに力を貸してくれます。今年度も保育のために子どものために何か出来る事はないか？と新たに園庭の整備とプールの日よけ取付工事等、力を貸してくれました。そのお父さんたちの活躍する姿を子どもたちは、あこがれのまなざしで見えています。お父さん同士のつながりを通じ、より積極的に子育てに関わるようになったお父さんたちもたくさんいます。子育てについての情報交流も積極的に行う等、お父さんたちの結びつきが強まっています。

この2つの組織はさくら保育園になくってはならないものです。

2011年3月の東日本大震災と原発事故は、福島市内でも放射線量が高かった渡利地域に深い傷跡を残しましたが、保育の進め方を考える上で、それまで培ってきた地域・保護者とのつながりが大きな力になりました。これからも共に手をつなぎ、子どもたちの未来と働く保護者の皆さんの力になれるよう保育を進めたいと考えています。また、新型コロナウイルスの流行により、行事の参加が少なくなったことを受け、懇談会で「何かやることはありませんか？」と気にかけてくれる保護者も多くなりました。

保護者同士の力を借りながら、活動を共にしていきたいと思えます。



散歩活動先での花と生き物との出会いと経験

- ・ 見つけた花を手にとりて花びらの形や枚数がある事がわかる。
- ・ タンポポの綿毛等、種になりさまざまなところに飛んでいく楽しさをみつけていく。
- ・ 野原にある草花を見つけて、草花で遊ぶ（散歩先から持ってくる）
- ・ 花の周りには、蝶々、虫、生き物がいることに気づいて興味を持つ



種から育てる体験（発芽、鉢植え、地植え、収穫）

- ・花の名前や花びらの形や枚数等に興味を持って気付いていく。
- ・野菜の花が咲くことにも気付いていく。（じゃがいも、なす等）
- ・種を植えて、命があることや、世話をする事をわかっていく。
- ・名札や看板を付けて育てている花、（野菜の花）がわかるようにしていく。

（花）

- ・マリーゴールド 5月
- ・コスモス 5月
- ・風船カズラ 6月
- ・アサガオ 6月
- ・ヒマワリ 6月
- ・オジギ草 10月
- ・キンセンカ 10月

（野菜）

- ・きゅうり 4月
- ・枝豆 6月
- ・大根 8月
- ・白菜 8月
- ・ほうれん草 9月
- ・かぶ 9月
- ・ヤグルマギク 9月



年間カリキュラムと関連付けた花と生き物への活動

- ・季節ごとに行事が行われている。行事と花植え活動と関連づけていく。（春、夏、秋、冬の行事と季節で見られる草花の種類）



- ・さつま芋のつる、乾燥させてクリスマスツリーのリース作り。
- ・パンジー、花壇の植え替え時、種を取って花を押し花として保存、しおり作り等、飾り物として変化を楽しむ。
- ・園庭での葉っぱや花びらを拾い、発見、いいもの探しへ発展
- ・作品作り（春、夏、秋、冬、葉っぱ集め、石ころ、自然物、描画）

生き物の発見！嬉しさ膨らみ好奇心へつながっていく 直接体験を通してわかること～

・姉妹園のさくらみなみ保育園（福島市南地区）との交流の中で場所の違いと園の周りに住んでいる生き物の違いを直接体験することでわかりました。5月の田植えに行った時、普段目にしたことのない田んぼの光景が子どもの目に映り普段と違うワクワク感が見られました。さくら保育園の近くの花見山には、あやめ池があります。オタマジャクシやカエルが住んでいますが、その池に足を踏み入れて捕まえたことはありません。田植えに行ったときは、そのままスイスイ泳ぐあめんぼうや、発見したカエルを捕まえたり友だち同士で嬉しさいっぱい活動していました。苗を右手に持ちながら、視線は、水の中のカエルへ。



- ▶ 直接体験している子どもの姿は、とても新鮮でした。環境が違くと生き物への気持ちの高まりが違ったり、住宅街では、見せることのない子どもの姿も見られました。田植えや野菜作りの交流を通して、生き物への関心が広がっています。「たくさんカエルがいていいね」「もっとつかまえてみたい」等、大喜びで話をしていたのが印象的でした。交流活動を通して探求心が広がって行くことがわかりました。



花や緑の文化（絵本）と民舞・太鼓に触れて

- ・花遊び、草遊びの楽しみ、花に係る四季の行事を体験
- ・花の歴史、花と祭り、生け花等、体験していく。
- ・花や緑（草花）の作品や文学に触れる（文学、絵本、わらべうた）
 - ・絵本 ちいさなたね
にんじゃごっこ
はないっぱいになーれ
どのはないちばんすきなはな
やさいばたけは、はなばたけ
おはなのすきなどぐりーぬ
 - ・わらべうた・詩
 - ・子どもの詩・うた
- ・描画活動—各年齢の描画カリキュラム
- ・民舞の作成を保護者と取りくむ
- ・荒馬踊り、竹踊り
- ・民舞を通して体験する



～まとめ～

花見山のふもとで、花との出会いや自然の中での保育実践を通しそれにまつわる小動物、生き物たちの存在に気づいたり、発見や喜びがあります。姉妹園との交流では、自分たちの保育園と別な場所には、知らない生き物がいることを知ったり、子どもたちの興味と関心は、一つの事から次から次へと発展していく面白さがあることを、体験を通してわかることがたくさんあります。地域との違いを通して、子どもたちの感性や発見が大いにあります。また、子どもたちの感性は、自然を通して感じたこと、考えたこと、伝えたいことを、描画活動や、造形美術の活動で表現していきます。その時の子どもからのつぶやきや思いを保育士が知ることで、子どもの理解へとつながります。この取り組みを通して保護者と共に活動していく意味が大きいと感じています。

田植えや稲刈りの活動では、収穫までの成長も見に行き、季節の違いを知ったりもします。民舞では、お米の豊作を祝って躍ることや荒馬の馬と人間との生活を考えたり、自然の中の保育実践プロジェクト活動を通して、豊かな心と感性を深めていきたいと思えます。